

オーディオ実験室収載

デジタルサントリーホールを楽しむ(2) —ライブ配信(2)—

1. 始めに

サントリーホールがライブ配信を行うとのアナウンスがありました。

<https://www.suntory.co.jp/news/article/sh0344.html>

前報(1)に引き続いてデジタルサントリーホール配信プログラムを視聴しました。

2. デジタルサントリーホール配信プログラム

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデンシリーズのヘーデンボルク・トリオによるベートーヴェン&ブラームス Iを視聴しました。

日時：2021年6月26日(日) 14:00 開演 (13:30 開場)

会場：ブルーローズ (小ホール)

出演：ピアノ三重奏：ヘーデンボルク・トリオ

ヴァイオリン：ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルク

チェロ：ベルンハルト・直樹・ヘーデンボルク

ピアノ：ユリアン・洋・ヘーデンボルク

曲目：

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第4番 変ロ長調 作品11 「街の歌」

ブラームス：ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 作品101

ブラームス：ピアノ三重奏曲第2番 ハ長調 作品87

受信はいつもの音楽用PC経由で、Sonica DACに入力します。





サイトのメンバー紹介を下記に引用します。

「ヘーデンボルク・トリオ（ピアノ三重奏）【プロフィール】

長男・和樹（ヴァイオリン）、次男・直樹（チェロ）、三男・洋（ピアノ）のザルトツブルク出身の兄弟によるピアノ三重奏団。幼少の頃より家族で室内楽を愉しむ。和樹、直樹はウィーン・フィルおよびウィーン国立歌劇場の正団員としても活躍。2016年からトリオとしての活動を開始し、17年に日本デビュー。これまでにウィーン国立歌劇場、ウィーン楽友協会、リンカーン・センター、サントリーホールなどで演奏。兄弟ならではの息の合った親密な演奏と三者三様の持ち味がバランス良く表現され、そこから生み出されるハーモニーが豊かな色彩を紡いでいる。カメラータ・トウキョウから3枚のCDをリリース。」

サイトのプログラム紹介を下記に引用します。

「プログラム・ノート

沼口 隆

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第4番 変ロ長調 作品11「街の歌」

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）が1797年末から翌年夏にかけて作曲した作品11は、旋律楽器にヴァイオリンではなくクラリネットを想定していた。ヨハネス・ブラームス（1833～97）にも同じ編成の作品がある（作品114）というのは、今回のプログラムを前にすると、なかなか興味深い偶然であろう。作品11のヴァイオリン・パートは、クラリネット・パートと本質的に異なる

ものではないが、作曲者みずからが用意したものだと言われている。「街の歌」の原語のドイツ語は「流行歌」といったような意味で、第3楽章の変奏曲の主題が、1797年10月に初演されて大人気となっていたヨーゼフ・ヴァイグル（1766～1846）のオペラ・コミックから採られていることに由来する。同じ人気の旋律を題材にした多くの作曲家たちの中にはニコロ・パガニーニ（1782～1840）も含まれている。

ブラームス：ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 作品101

ヨハネス・ブラームスは、ピアノ三重奏曲を3曲残しているが、いずれも4楽章からなる堅牢な構造を有した純粋器楽であり、楽器間のバランスを追求しつつ音響の拡張を希求している点などから、ベートーヴェンやフランツ・シューベルト（1797～1828）の系譜への意識を感じさせる。曲の規模は、創作のたびに縮小されていっており、その傾向はいずれの楽章にも等しく認められる。第3番は、室内楽作品において多くの実りをもたらした1886年の夏に成立しており、饒舌に過ぎず、さりとして縮約的にもなり過ぎず、魅力的な楽想が効果的に活かされている。辛口の批評をも辞さない友人たちから絶賛されたのは、簡にして要を得るような充実した書法ゆえのことだったのであろう。

ブラームス：ピアノ三重奏曲第2番 ハ長調 作品87

第2番に着手したのは、第1番 ロ長調 作品8から実に26年を経た1880年のことだった。その動機は定かではないが、熟慮を重ねた上での構想であったことは、ハ長調と変ホ長調で二つの第1楽章を準備したことからも推測できよう。後者は破棄されたらしく、痕跡は残っていない。後続の楽章が作曲されたのは、さらに2年後の1882年で、同年中に幾つもの半公開演奏を経て、12月29日にフランクフルトで公開初演された。自筆譜には、さまざまな変更が記録されており、試行錯誤を重ねた様子が窺える。ブラームスのピアノ三重奏曲の中では唯一、緩徐楽章を二番目に配しているが、中間楽章の配列も熟慮の末の決断だったようだ。」

3. デジタルサントリーホール視聴の経過

前回同様、事前にメールで受信手順が知らされてきましたので、それに従って受信を開始します。オリジナルの動画配信プラットフォーム「SmartSTREAM」を使用した配信とのこと。

指定された受信手順で、すぐにサイトに入れました。Sonica DACの表示は48KHzとなっています。

曲の解説は、上記のプログラム・ノートが参考になります。

ベートーヴェンのピアノ三重奏曲第4番は、「街の歌」という副題のとおり、気軽に聴ける曲です。

ブラームスのピアノ三重奏曲第3番と第2番は、ブラームスらしいメランコリック

ロマンチズムの雰囲気を感じています。

メンバーは上記の通り、兄弟3人で、ヴァイオリンの和樹と、チェロの直樹はウィーン・フィルの演奏で顔なじみですし、ピアノの洋も力強い演奏を聴かせてくれ、息の合った演奏です。

音質は並みのYouTubeを超えたリアルなものです。

さらに後日のアーカイブ配信も同様に視聴できました。

4. まとめ

デジタルサントリーホールのライブ配信とアーカイブ配信が視聴可能となりました。